

史料A 漬家百姓株取続に付、議定

儀定一札之事

右は新右衛門相漬罷有候に付、永久相立候趣之仕方思召を村役人中より被仰渡候、猶又組合之者共勘弁仕、当申年仕方を以、来る酉年より年々、右新右衛門相立候儀は、田徳米村役人中御年貢・諸役等御勘定、残米を以相立可申候、然る上は御役人中方、年々御世話を以、右作徳御勘定米を以相立可申候、為念組合請印一札差上申所、

仍而如件

文化九申年

新右衛門組合

八月

作左衛門

印

同

善兵衛

印

同

伝右衛門

印

当村

御役人中

史料B 後家病気で漬家願

乍恐以書付奉願上候

一 当村安七後家儀、独身者に御座候処、長々相煩渡世も難相成、同郡三崎町甚右衛門と申親元へ引取右安七跡式漬家に仕度奉願上候、尤居屋敷壹畝拾六歩、下下畑三畝所持仕候所、病中入用金子壹両貳分地借仕候方へ相渡、御年貢・諸役之儀は、金主より御上納仕候筈に御座候、何卒漬家に被仰付被下置候様に奉願上候、然上跡式相続之もの御座候はゞ、早速御願可申出候、右願之通り被仰付被下置候はゞ、難有奉存ソ、已上

菊名村

願人 安七 後家 印

天明八戊申年二月

親類五人組頭

伝左衛門 印

組頭 四郎右衛門 印

名主 惣右衛門

浦ノ郷

御役所様

史料C 差出申一札之事

一 私義、老母吉人・倅吉人、都合三人家内に御座候処、私始倅病身に相成、農業相成兼、暮方手段無之、依て当村にて貴殿御抱田畑之内、村入口にて、橋際川端において畑内歩拾貳歩三尺之場所に、茶屋商売致度候間、梁間九尺、間口貳間八尺程に作立住居致度旨、御頼申上候処、格別御勘弁を以御得心被成下 忝 仕合奉^{かたじけなき}存候、然る上は、御上様は不^し申及当御家中御歴々様・御役人様方・御他所御役人様に至迄、不礼不^し仕様心付可^し申候、扱又商売柄之義に付、旅人喧嘩口致候共、私共引受、決て御苦体等相懸申間敷候、為^二後日^一親類供々加判、依て如^し件

天保五年年

九月

願人

富塚村 長助 印

親類

同村 長次郎 印

新発田町

堀川才吉 殿

史料D 一札の事

差出申一札之事

一 私儀、親代より御抱田畑御預被^二成下置^一、折節、窪み田地之場所、寒中土御引入、御普請御手宛被^二成下^一、為夫ケ世間之者より出来も宜鋪、家内一統暮方安堵仕居、難^し有奉^し存候、猶又此度御預け之田畑養育之ため、富塚村入口川端にて、同村長助より願で、住居之内、肥御預け被^二成下^一、難^し有仕合に奉^し存候、此上猶又念之入御預之田地大切に仕、出情致、御苦勞不^二相成^一、願ケ間敷義勿論悪作不^し仕様可^し致候、萬一不精仕候はば、如何様共御思召通に可^し被^し成候、其節彼是一言之

異儀申間鋪候、扱又長助義、勝手寄

外方え転宅致候はば、肥之儀、漬に相成候ても其節に至り、毎々より御預け之御田畑に彼是相拘り候儀、決て申間鋪候、此度之儀は格別之御慈悲之御事に付、余慶之御仕向に御座候^一間、此段承知仕居候処、相違

無^二御座^一候、為^二後日^一親類加判依而如^し件

天保六末年二月

小作人 甚兵衛 印
親類 長次郎 印

御当中町 堀川才吉 殿